

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年4月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700145
法人名	有限会社 ひまわり苑
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県南九州市川辺町上山田4239番地5 (電話) 0993-58-9038
自己評価作成日	平成31年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/popub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・玄関に季節の花を入居者様と一緒に植えたり、畑で野菜の収穫を一緒にしている。花や野菜の育て方、調理方法をあえて、入居者様に尋ね、記憶を喚起したり、役割を感じてもらえるようにしている。
・外に出ると、原風景に近い田舎の景色があり、花や小鳥など自然の風景を眺め、落ち着いた時間を過ごせる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は畑や桜の木もあり自然豊かな集落に立地し、施設長宅に隣接している為、緊急時等、臨機応変な対応ができる。看護師が常勤しており日頃の健康管理、医療面で相談しながら支援している。
・地域との付き合いを大切にしており、回覧板での情報収集や野菜の差し入れ等があり、日常的に交流している。「苑便り」の発行や面会者カード等で、家族とも信頼関係ができています。施設長は集落の消防団員である。
・職員は、利用者が自分でできることは見守り、必要時に支援するようにしている。普段から役割を持つての生活を支援し、口腔体操や戸外での作業、歩行等で利用者の残存機能の維持に務めている。
・管理者は職員が気軽に意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに心がけ、働きやすい環境を作っている。離職者も少なく、研修や資格取得に協力的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所やトイレなどスタッフの目に付くところに掲示している。理念を再検討の結果、対象の世代が変わっても、今の理念のままいいのではないかという結果になった。再検討したことで、スタッフの意識付けにもなった。	開設時からの理念を廊下や事務室・トイレに掲示し、パンフレットにも掲載している。申し送りやミーティング時に、理念の確認とケアの振り返りを行っている。一度見直しを検討したが、現状のままの理念で実践する事を職員間で確認した。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加できる時は、参加するようにしている。回覧板で情報を共有し、災害時の協力をお願いしている。地域住民が野菜の差し入れ等がある。	町内会に加入し回覧板で地域の情報を得て、地域の行事に参加している。棒踊りや運動会等への参加、中学生の職場体験学習、ボランティアの受け入れ等をしている。地域から介護や認知症について相談を受けて対応したり、近隣から野菜の差し入れ、車椅子の貸し出し依頼がある等、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	介護についての相談を受けることがあり、認知症のことや介護サービスのことなど話しをすることがある。但し、ホーム側から積極的に介護のことで地域に働きかけていることはない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議が、合同開催や身体拘束等適正化対策委員会を兼ねた開催など多様化されてきたが、どちらも行っておらず、従来と同じ開催となっており、マンネリ化を感じる。会議で出る意見は、外側からみた貴重な意見として取り入れている。</p>	<p>会議は2ヶ月毎に開催し、ヒヤリハットや外部評価調査結果を含めた事業所の状況報告と意見交換を実施している。避難訓練も同時に実施することもある。数年前、花見の件で意見が出て、敷地内に桜を植樹し花見を楽しむ等、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>質疑などある際に、連絡を取ったり、運営推進会議の際に、協議をしたりしている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や電話及び出向いての相談・報告を気軽に行い、協力関係を築いている。生活保護担当者とも同様である。グループホーム連絡協議会や専門部会には積極的に参加して、情報交換を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束等適正化対策検討委員会を設置し、年3回実施。あと一回実施予定。研修も実施しており、身体拘束ゼロを継続している。</p>	<p>指針があり、身体拘束等適正化対策検討委員会を3ヶ月に1回、身体拘束の研修会は年2回実施している。言葉についての拘束も含め具体的な事例を示し話し合っている。日中の玄関の施錠はせず、外に出て行く利用者には付き添って散歩したり、地域の見守りもあり、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の芽」というアンケートを一人ひとりに書いてもらい、集計した。それを元に研修を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	包括支援センターを訪問し、制度について詳しく教えてもらい、活用できるよう支援しているところである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、事前に契約書等を渡し読んで頂いた上で、説明を行っている。理解納得できたか確認し、契約や解除の署名・捺印をもらっている。報酬改定等あった場合は、文書でお知らせしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	アンケートを加えた面会簿を作成し、面会時に任意に書いてもらうようにしている。感謝の言葉は職員の励みになっている。苦情や相談等書いてくれる人はいないが、評価の段階に○をつける部分で、察するようにしている。外部の相談窓口は、重要事項説明書や玄関に掲示している。	利用者からは運営推進会議や入浴時、お茶の時間、利用者間の対話の中で意見や要望を把握している。家族からは面会時に要望等を聞いたり、個票の面会者カードに意見等を記入してもらえよう工夫している。出された要望は運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝のミーティングや日常会話の中で、意見や提案を聞いており、解決に向けて取り組んでいる。	職員間のコミュニケーションが良好である為、日常の業務の中で提案があったことを試行することもある。必要時には管理者から声をかけ、職員全体で共有し運営に反映できるようにしている。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業時間は、なるべく定時となるようにし、サービス残業をしないようにしている。希望休になるべく対応できるようにしている。コーヒーマーカーを設置し、ほっとできる時間も作るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて研修を行っている。外部の研修は、適正を見極めながら、出席してもらうようにしているが、断られることも多い。意欲を持ってもらえるように取り組みたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しており、研修や交流会に参加している。迷った時は、ここに連絡を取り、他の事業所の意見を聞いたりしている。実地指導で指摘されたことなどの意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定段階で、面談や見学を行い、なじみの環境に近づけるよう対応し、なるべく安心できるようにして環境の変化による認知症状の進行防止に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際より、困っていることなど聞き取り、相談に乗ったり、面会時に近況を説明するとともに、家族の不安や、相談を安心して話していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネや病院の相談員から、情報提供を受けて、家族からの情報や希望とあわせて検討し、入居が適正化見極めている。家にいたいという本人の希望や状況を考慮し、居宅サービスを勧める事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の作り方や花や野菜の育て方などを相談したり、洗濯物たたみや、新聞・ちり紙折などできることを行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性があんまり良くない方でも、様子を見ながら家族に働きかけ、協力をもらうようにすることで、面会など増え、いくらか関係性の改善につながっていると思われる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人や近隣住民の訪問を気軽に受け入れ、また、住み慣れた集落の行事などに参加することで、なじみの関係の継続に努めている。	近隣に住んでいた入居者が多く知人・友人の面会がある。美容室への同行や墓参りに家族や職員が対応している。電話の取次ぎや年賀状の手助け等、馴染みの関係が途切れないように支援している。家族と誕生日に外食したり、正月や盆には帰宅や外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーションを通し、気持ちを共有し一緒に暮らす仲間であると認識できるように支援し、うまくいっていたが、ここ数年、世代の違いなのか、口論などのトラブルが多い。仲裁やフォローの支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要があれば、相談に乗ったり、経過をフォローしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居宅ケアマネや病院から、情報提供を頂いたり、家族や本人様へ意向を確認している。日頃の会話や表情などからその人の立場に立って、読み取るようにしている。	日常の会話や表情、利用者間の会話から思いや意向を汲み取っている。食事の量や献立の要望が多く、職員で話し合い可能な限り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネや病院から情報提供を受けたり、入居時にご家族や本人様から聞き取るが、日頃の会話の中からや介護スタッフから情報収集し、ケアプランに反映するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で朝夕引継ぎを行い、状態把握に努めている。日頃の言動に気をつけ、観察し、介護記録に記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族から希望や意向を聞き、スタッフ、受診時の医師の意見等集約し、評価・アセスメントの結果を踏まえながらケアプランを作成している。	家族の意向等を基に、職員・主治医の意見を聞いて介護計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、6ヶ月に1回及び状況変化等の必要時にその都度、計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯ともに介護記録を記入。バイタルチェック表や業務日誌も合わせ、見直し、評価、アセスメントに繋げている。病状などにより、個別の排泄チェックなども行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに合わせて柔軟に支援できるように、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所や消防署等の官公庁との連携や、地域の消防団の方の協力等を協力を依頼している。地域の資源を探し、ボランティアの受入などもっと活用していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居の際に、本人様やご家族の希望により、決めている。なるべく入居前のかかりつけ医を継続して受診できるようにしている。受診介助もご家族が行うか、ホームで行うか相談して決めている。希望により、居宅療養管理指導を利用し、受診介助している。	かかりつけ医は、本人、家族が希望する医療機関である。受診は遠方家族の場合は職員が同行し、家族の協力も得ている。月1回の定期受診がある。主治医とは常に連携がとれ適切な医療を受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携加算は取っていないが、看護職員が常勤しており、日頃の健康管理、医療的な部分で相談しながら支援している。また、居宅療養管理指導の看護師にも相談したり、情報提供を行ったりしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、サマリーを提供したり、立ち会って情報提供したりしている。入院中、定期的に面会を行い、家族や相談員等から情報を受けて、状況を判断しつつ退院にむけて支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携加算も取っておらず、ターミナルへの対応もしない方針であるが、状況により、本人・家族の希望もあって、医療機関の協力が得られる場合は、できる限り、ホームで過ごせるように支援している。医療機関にバトンを引き継ぐ時期の見極めが難しい。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の事業所の対応について説明し、同意書をもっている。重度化等の場合は、家族の意向に沿って事業所でできる支援に取り組んでいる。利用者の状況や主治医・家族・職員の協力体制等により、本人家族の意向を検討して支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命法は毎年消防署員より講義を受けている。その他も初期対応についても、研修を行ったり、マニュアルをいつでも見れるところに置いてある。ヒヤリハット事例を検討し、事故発生の防止には努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署に依頼し、消火避難訓練を行っている。近所の方や、地域の消防分団にも、協力を依頼している。自動通報装置・スプリンクラーも設置しており、訓練時等説明を受けている。避難時に必要なものは、リュックに詰めており、年1回見直ししている。地震対応の避難訓練も予定しており、防災頭巾を手作りしている最中である。</p>	<p>年2回、昼夜想定で消防署立ち合いの下、消火避難訓練を実施している。施設長が集落の消防団員で地域の協力も得ている。スプリンクラーの防火設備は業者が定期点検している。カップラーメン、飲み物、懐中電灯、医療的連絡先のファイルを用意している。地震対策の避難訓練も視野に入れている。防災頭巾を制作中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の声かけなど、入居者が恥ずかしい思いをしないよう、さりげなく行い、人格を尊重する言葉かけや対応を心がけている。一人ひとりの個性や背景を考慮し、言葉かけや対応を変える事もある。	マニュアルがあり、年1回研修を実施している。さん付けでの呼びかけや方言の使用等、利用者に応じた言葉遣いを心掛けている。自己決定ができるような言葉かけや羞恥心への対応等で、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	考えや感情を、表した時は、一端は受け入れるように努めている。また、選択するような場面では、なるべく自己選択してもらうように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが、過ごしたい場所で過ごし、好きなことをしている時間がある。つわむきなど、入居者の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	多少おかしいと思っても、その方の個性を尊重しつつ、少し助言する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のもの、郷土料理や行事食を取り入れて工夫している。つわを剥いたり、大根を干したり自分たちが携わって作ったものを材料に使うと喜ばれる。	利用者の好みや旬のものを取り入れて、職員が献立を作成している。個々に応じた食事形態で提供し、代替品も準備している。下ごしらえや保存食作りを職員と一緒にしている。誕生日の好物やケーキ、季節の行事食等で楽しく食事ができる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、少し無理をしても飲んでもらうようにしている。お茶で飲めなければ、黒糖を入れたり、他の飲み物を使うなど、脱水予防には、気を使っている。食事も、形態を考えたり、分食にしたりして栄養の確保に努めているが、どうしても栄養が不足する場合は、医師に相談し、医療用の栄養剤を処方してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア加算は算定していない。口腔ケアは、液体歯磨きを使うなど一人ひとりにあわせ、行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、自立にむけた支援に取り組んでいる。介助が必要な場合にも、個人に合わせて、介助に入るタイミングや声かけの仕方を工夫している。	排泄チェック表でパターンを把握し、時間で誘導している。ポータブルトイレは夜のみ使用している。パット類は個々に合わせて選択して経費削減にも気配りし、自立に向けた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取・運動・食事に気をつけている。排便を記録しており、医師の指示の元、下剤もその方に合うように調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者の希望を優先しながら、体調を見て、個々に応じた入浴ができるように支援している。	週2～3回の入浴を基本に午後の時間帯で実施している。体調等により部分清拭やシャワー浴を実施している。嫌がる場合は無理強いせずにタイミングをみて声かけする等、利用者に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や行動により、休息が取れるように配慮している。よく眠れるように、気温調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書をケース記録に綴り、いつでも見れるようにしている。変更があれば申し送っている。配剤ケースを作り、入れる時、持って行くとき、配剤の時確認し、誤薬を防ぐようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理方法や昔の風習や畑仕事のことを教えてもらったり、つわむきや新聞おり等の作業をしてもらうことで、役割意識を持ってもらうようにしている。レクリエーションや趣味の継続の手助けを行い、楽しみを持ってもらうようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候や入居者様の状態を見て、近所に散歩に出かけたり、墓参りや買い物、ドライブに行くこともある。	天候の良い日は、外気浴や近隣を散歩している。計画を立て桜見物、地域行事の太鼓踊りや運動会に出かけたり、個別の希望で受診、買い物、墓参り、ひまわり畑の見物に行っている。家族と外食や外泊等に出かける利用者もあり、できるだけ出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと心もとないと 言う方には、スタッフと家族で所持金を把握し面会の時チェックしていただくよにしている。基本的には、物盗られ妄想の方もいるので、なるべく持ってもらう、必要な場合は、立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙の希望があれば、支援している。年賀状を出したい人は、書いて出せるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の好みが違うので、温度・光・風の調節は、声かけし、意見を入居者に求めながら、バランスを取れるよう行っている。温度計で、朝・昼・夕温度を見ながら空調など調整している。ソファの取り合いでトラブルになるので、誰もが納得して座れるように工夫している。	リビングは明るい。大きなテーブルがあり、神棚・仏壇があり、季節の花や季節感のある作品が飾られている。隣の和室はテレビとソファがあり、利用者が気持ち良く過ごせるよう座る場所等を工夫している。利用者と職員の距離が近く、お互いに目が届き安心できるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなところに椅子を持って行って、庭を眺めたりしている。気のあった入居者様と、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回りのものは、使い慣れた物を持ち込んでくださるようお願いしており、個人差はあるが、持ち込まれている。家族の写真はかえって、心を乱すこともあり、個人の状況により、対応している。	個々の高さに合わせて調整されたベッドを備えた居室に、本人の好み等で使い慣れたタンスや衣装掛け、寝具、写真等を持ち込んでいる。テレビは必要に応じて貸し出しである。本人が落ち着いて過ごせるように個々に応じて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、お風呂など手摺がついており、安全になるべく自立した生活が出来るようになってきている。ベッドの高さも、一人ひとりの筋力や立ち上がり、転落の危険性を考慮し、調整している。転倒の可能性が高い方の居室では、コーナー等に衝撃を和らげる素材で保護している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない